

日本母性看護学会ニュースレター

The Japan Academy of Maternity Nursing Newsletter No.10

発行 日本母性看護学会 事務局：〒228-0829 神奈川県相模原市北里2-1-1 北里大学看護学部内 Tel.042-778-9826 Fax.042-778-9826

10周年記念式典挨拶と状況報告

理事長 高橋 真理（北里大学看護学部 教授）

第10回学術集会において、日本母性看護学会設立10周年記念式典を執り行った。ご来賓として、日本看護系学会協議会会長大田喜久子氏、法人日本母性衛生学会理事長、前原澄子氏、日本新生児学会理事長横尾京子氏、社団法人大阪府看護協会会長豊田百合子氏、大阪府健康福祉部笹井康典氏にご臨席頂き、お祝いのご挨拶を頂いた。また、本学会へ長年に渡りご協力頂いた株式会社メディカ出版（代表取締役長谷川素美氏）、大衛株式会社（代表取締役加藤浩司氏）へ感謝状を贈呈した。

理事長としての挨拶の中で、10年間の活動を支えた前理事長前原澄子氏を初め、関係各位の方々に感謝するとともに、本学会の発展に向けた決意を述べさせて頂きました。その挨拶文を紹介いたします。

女性・母子・家族の健やかな一生を支えるケアの探求に向け、新しい世紀の展望を背景に20世紀末にスタートした本学会も、発足10年の節目を迎え、21世紀の新たな局面を迎えようとしています。この10年の学会を取り巻く状況は、大学の教育改革に加え、日本学術会議のあり方など、大きな変革が進んでおります。また、少子・長寿高齢社会を迎え、出

産を取り巻く医療現況や女性の生涯の健康問題など、現在、わが国の母性看護や女性の健康に対する課題は山積みであり、本学会の重要性は益々大きくなると思われまます。このような状況の中で、日本母性看護学会が、母性看護学の基礎研究を深め、エビデンスに基づく実践研究を積み重ね、女性・母子・家族の生涯の健康を支援していくには、ますますの絶えざる努力が必要であり、学会の責任の重さを痛感しております。

本学会の趣意書には、「母性看護学会領域の研究成果を蓄積し、体系的に発展させていき、母性看護の立場から国民の保健医療に貢献していきたい」と記されている。本学会の社会的役割を確認する式典となった。本学会の社会的役割を確認する式典となりました。式典の開催にご協力頂いた皆様方に心より御礼申し上げます。



第10回日本母性看護学会 学術集会報告

学術集会長 末原紀美代 (大阪府立大学看護学部 教授)

記念すべき第10回日本母性看護学会学術集会を平成20年6月21日、22日の両日にわたり、我が国の文明開化発祥の地であり、最も早くから助産師教育（産婆教育）が行われた大阪の中之島、そこにある大阪大学中之島センターにおいて開催させていただきました。

厚生労働省の「すこやか親子21」を踏まえ、第10回日本母性看護学会学術集会のテーマを「つながりの輪と絆の中で生命を迎え育むために」とし、さまざまな角度から講演会やシンポジウム・ビデオセッションを企画いたしました。

開式のあとに、高橋真理理事長による「日本母性看護学会の来し方と行く末」についての講演がありました。本学会が、母性看護学の基礎研究を深め、エビデンスに基づく実践研究を積み重ね、女性・母子・家族の生涯の健康を支援するために、ますますの努力が必要であることを強調されました。

学術集会長の講演は「つながりと絆を求めて40年」というテーマで、学術集会長の中心的な研究と活動を通して、取り組むべき課題を示し、母性看護学を取り巻く社会情勢の変化と看護専門職者としての役割を通して、つながりの輪と絆の重要性を述べました。

10周年記念式典が挙行されました。来賓5名の方々からの祝辞をいただき、本学会発足時からご協力・ご支援いただいている企業2社への感謝状贈呈式が行われました。

10周年記念講演は「つながりあって働く人たち」というテーマで、障がい児教育に深く関わってこられた東野洋子氏の社会的支援についての予定でしたが、諸事情により、講演内容をビデオ上映に変えさせていただきました。東野氏の熱く慈愛に満ちた思いが会場に深々と伝わり、参加者の涙する気配が感じられました。

特別講演はイギリスReading大学教育学部の言語学者である山本麻子氏による「家庭・学校・地域をとりまくことば—よりよき社会を目指して」について、25年の滞英生活と研究をお話していただきました。イギリスの家庭教育の実態と初等教育での「他を傷つけずに反対意見を述べること。人の考えと自分の考えを区別し、引用の仕方を学ぶこと。他人の貢献を認めること。クラスで決めたゴールデンルールを守ること。」などなどが重視されていることを知り、日本における教育にも取り入れたい事項が多くありました。社会（家庭・学校・地域）のつながりの輪と絆を深めるための取り組みとことばによるコミュニケーションの重要性を再認識できました。

教育講演では、大阪府立大学人間社会学部の森岡正博氏が「生殖補助医療の倫理」について障がい児のホルモン操作や子宮摘出などの例と「優生思想」とを関連させて講演していただきました。母性看護や生殖補助医療の

テーマを素材にしながら、哲学・倫理学・宗教の次元から生命倫理を考えるとというヒントをいただき、現場での実践につなげたいと思いました。

シンポジウム1「母性看護専門看護師の実践活動」というテーマでは、臨床で活躍する母性看護専門看護師3名、看護管理者、大学院担当教育者それぞれの立場から母性看護専門看護師の活動と母性看護学分野の新たな発展の可能性を提示されました。

シンポジウム2「育児を科学する」は、絆・親性の発達・脳科学の視点・母体内環境・養護性をキーワードに4名の専門家から話題を提供していただき、活発な討論が行われました。

一般演題は口演が24題、示説が13題、また、

本学術集会での新しい試みとしてビデオセッションを設け10編の発表があり、好評を得ました。

ランチョンセミナーやドリンクコーナーの提供、新製品の展示など関連企業にご協力いただきました。また、大阪府立大学羽曳野キャンパス茶道部によるお茶のもてなしを企画し、参加者皆様に憩いの一時を過ごしていただきました。

学会本部・学会員・一般参加者・学生・関連企業や団体など多くの人たちとのつながりの輪と絆を実感した2日間でありました。最後に、厚生労働省や（社）日本看護協会など多くの関係機関からご後援をいただきましたことに対して厚くお礼を申し上げます。



10周年記念式典



シンポジウム1「母性看護専門看護師の実践活動」

第11回日本母性看護学会学術集会のお知らせ

第11回日本母性看護学会学術集会会長 森 恵美

日本母性看護学会の会員の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。日本母性看護学会も昨年10周年を迎え、看護学の中規模学会として成長発展し、母性看護学の立場から社会貢献をしていると

ころです。

第11回日本母性看護学会学術集会は、平成21年6月20日（土）にて、「子産み子育て文化の再生と母性看護」というメインテーマで行います。このテーマは、文化の多様性を尊

重する社会の実現が注目され、日本では子産み子育てが社会文化の中で伝承性が薄れ、新たな問題が発生してきていることから考えました。本学術集会のねらいは、子産み子育て支援に関する研究や実践を発表していただき、多様な研究者や子育て支援実践者と討議をすること、並びに千葉大学看護学研究科を中心とした21世紀COE研究拠点形成の中で、産出された研究成果や実績を積極的に公表し意見交換する中で、子産み子育て文化・環境を

尊重した母性看護への理解を学会員とともに深める機会とすることです。

本学術集会を通して、母性看護の専門家、子育て支援を担っている他の専門家が学術的、あるいは実践的に意見交換をして、母性看護学の立場からの子産み子育て支援活動の発展の一助になればと願っております。

つきましては、本学術集会の趣旨にご賛同いただき、学会に積極的にご参加くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

学会の概要

1. 開催時期：2009年6月20日(土) 9:30~17:00
2. 会場：千葉大学西千葉キャンパス構内（けやき会館、社会文化科学系総合研究棟）
〒288-8601 千葉市稲毛区弥生町1番23号
3. プログラム
理事長講演「ジェンダーに基づく女性の生涯への健康支援—NEW PERSPECTIVES」
演者：高橋 真理（北里大学看護学部）
座長：森 恵美（千葉大学看護学部）
会長講演「日本文化を尊重した育成期家族の看護実践」
演者：森 恵美（千葉大学看護学部）
座長：村本 淳子（三重県立看護大学看護学部）
特別講演「日本人の子産み・子育て—いま・むかし」
演者：宮里 和子（武蔵野大学看護学部）
座長：末原紀美代（大阪府立大学看護学部）
シンポジウム「現代の育成期家族をめぐる看護実践の先駆的試み」
シンポジスト：河合 優年（武庫川女子大学文学部）
佐藤 紀子（千葉大学看護学部）
大平 光子（山形県立保健医療大学保健医療学部）
片岡 まり（株式会社資生堂総務部CSR室）
司会：田邊美智子（福井大学医学部）
河野 洋子（淑徳大学看護学部）
一般演題（口演、示説）、交流集会
懇親会 けやき会館1階レストラン「コルザ」にて（料金別）
4. 一般演題、交流集会の申込み締め切り：平成21年3月9日（月）必着
5. 会費：会員 事前6000円、当日7000円
非会員 事前7000円、当日8000円
6. 学会事務局：千葉大学看護学部内 担当／石井
FAX 043-226-2414
E-mail jsmn2009-gakkai@umin.ac.jp

第2回

日本母性看護学会学術論文賞決まる!!

第2回の日本母性看護学会学術論文賞の授賞式が、去る2008年6月22日第10回日本母性看護学会学術集会総会の会場で行われました。栄えある第2回の学術論文賞を受賞した論文は、原著「妊娠経過における妊娠の受容を高める看護援助の効果－快適さの体験に焦点を当てた看護介入を行って－」日本母性看護学会誌Vol.8.(1)に掲載された論文です。著者は中村康香氏(東北大学大学院医学系研究科)です。著者の中村康香氏へ賞状および副賞が理事長高橋真理より授与されました。中村氏には授賞の栄誉をたたえとともに今後のさらなるご研鑽を期待いたします。

第2回は日本母性看護学会誌Vol.7(1), 2007.およびVol.8(1), 2008の原著および研究報告、総説11編中、既に昨年授賞済論文を除いた10編を対象論文とし、厳正な審査の結

果、選出されました。今回選ばれた論文は昨年同様看護の介入研究としてデザインされた論文で他論文を大きく引き離しての授賞となりました。日本母性看護学会誌は質の高い論文が多数掲載されており、母性看護学の研究分野をリードしている論文ですので、インパクトファクターもあがり、今後ますます重要視されていくものと考えます。

第3回の日本母性看護学会学術論文賞は、日本母性看護学会誌Vol.8(1)およびVol.9(1), 2009年3月発刊の論文の中から、審査を経て決定する予定です。この学術論文賞の発表及び授与式は平成21年6月に行われます第11回日本母性看護学会学術集会総会で

(文責 総務理事 吉沢)



世界看護科学学会

第1回学術集会のご案内

世界看護科学学会第1回学術集会のご案内をさせていただきます。世界看護科学学会 the World Academy of Nursing Science (WANS) (仮称) は、「看護の国際学術交流ならびに共同研究を促進することを通して世界の人々の健康と福祉に貢献すること」を目的として、日本看護科学学会が世話役となり、2009年9月に学会発起会と第1回学術集会を予定している学会です。日本やアジアの国々、アメリカなどから現在13団体が加盟しており、日本母性看護学会も加盟団体となっています。学術集会の概要は下記に示しています。詳細情報は、URL <http://wans.umin.jp/index.html> をご覧ください。現在演題ならびに参加登録を開始しました。皆さまのご発表とご参加を心からお待ちしております。



◆学術集会メインテーマ

看護知識の新たな領域の創造に向けた挑戦 Towards creating a new domain of nursing knowledge

◆学術集会長

山本あい子 (兵庫県立大学教授 地域ケア開発研究所所長)

◆日 時

2009年9月19日(土)・20日(日)

◆場 所 神戸国際展示場

◆参 加 費

3万円 (2009年4月30日以前) ・ 4万円 (2009年5月1日以降)

◆演題申込み期間

2008年11月11日～2009年1月15日

◆事務局担当 兵庫県立大学明石キャンパス

事務局からのお知らせ

1. 第10回日本母性看護学会学術集会について

平成20年6月21日(土)～22日(日)末原紀美代会長(大阪府立大)のもと、第10回日本母性看護学会学術集会が開催されました。メインテーマ「つながりの輪と絆の中で生命を迎え育むために」を掲げ、シンポジウム1では母性看護専門看護師の実践活動と今後の課題について、またシンポジウム2では「育児を科学する」をテーマに様々な立場から報告や提案がなされました。一般演題は口演、示説のほかに新しい試みとしてビデオセッションが設けられ、映像も取り入れた発表がおこなわれました。懇親会は、ハープ演奏、乙女文楽を楽しみながらの交流会となりました。

2. 平成20年度日本母性看護学会総会について

今後の学会活動をさらに活発化させるため、平成20年事業計画にて新たな分掌と担当理事が決定しました。

分掌	担当理事	
理事長	高橋 真理	
副理事長	森 恵美	
庶務	島袋 香子	
会計	末原紀美代	渡部 尚子
編集	森 恵美 鈴木 幸子	石井 邦子
広報	大平 光子	村本 淳子
研究促進	工藤 美子 石井 トク	安藤 広子 理事 全員
学術・教育支援	吉沢富予子 町浦美智子	跡上 富美 山本あい子
戦略的プロジェクト	成田 伸 小松美穂子 黒田 裕子	遠藤 俊子 久米美代子
監事	前原 澄子	田邊美智子

3. 第4回セミナーの開催について

平成20年8月13日(水)、北里大学薬学部1号館において第4回セミナーを開催しました。参加者は37名で、2名の講師に講演頂きました。最初の講師は、Dr. Heather Rowe (所属: Key Centre for Women's Health in Society The University of Melbourne) で、「Research of Women's Health」と題して講演され、多くの疾病に関する研究結果が男性のみを対象にした結果であり、女性を対象に調査をする必要性を説かれました。2番目の講師は、Dr Perri J. Bomar (所属: 千葉大学看護学部) で「Health Promotion in Menopausal Women」と題し、更年期女性が自分らしく、また再変身するための具体的ヘルスプログラムについて講演されました。

通訳付のセミナーであり、ディスカッションも深まる中で、現在の日本の産科医療が抱える問題を解決するには、女性の健康問題を扱う研究者と政策者が問題を共有する場をつくるのが重要であるとのアドバイスが印象的でした。

セミナー後には、講師のお二人を囲み、屋形舟での夜のクルーズ、食事会であったが、夜景を楽しむよりもカラオケで多いに盛り上がり、楽しいセミナーでの一日となりました。

4. 事務局からのお願い

平成21年度は役員選挙の年になります。選挙管理委員会は4月初旬に立ち上げ予定です。選挙管理委員会が立ち上がり次第、会員の皆

様に選挙のご連絡をさせていただきます。平成20年度までの会費が未納の皆様には、2月に郵送にて案内をさせて頂いております。選挙人・被選挙人の資格に関わりますので、未納の方は、3月末日までに納入されますようお願いいたします。

追記

第10号のニュースレター発刊が大幅に遅れましたことをお詫び申し上げます。諸事情が重なり、皆様にはご迷惑をおかけいたしました。また、ご協力をいただきました皆様には感謝申し上げます。(大平)

発行人：高橋真理

発行日：2009年6月5日

編集担当者：大平光子、柴田治子

発行所：日本母性看護学会

〒228-0829

神奈川県相模原市北里2-1-1

北里大学看護学部内

Tel/Fax：042-778-9826

Eメール：jsmn@nrs.kitasato-u.ac.jp

